

平成28年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人純正福祉会 大和保育所

評価項目の達成・取組状況・これから改善したいこと

評価項目	取組状況
I 保育の計画性	保育所保育指針を基に保育課程を作成し、自園の保育理念や保育目標を十分理解したうえで、指導計画を作成している。指導計画に基づいた環境構成を行い、子どもの主体性を重んじている。年間、月、日々の記録で保育の評価、反省などPDCAサイクルを実践している。
II 保育の在り方 幼児への対応	健康と安全への配慮では、朝の視診から始まり一人一人の子どもの健康状態や家庭の状況を把握し、保護者や保育士同士の連携を行っている。保育士は子どもの援助者として、一人一人が十分に自己発揮、自己抑制、思いやりを持って成長出来るように「応答的保育」を基盤に異年齢保育や育児担当制の保育を実践している。
III 保育者としての資質や能力・良識・適性	保育者としての専門知識や技能を高めるため、課題を持って園内研修に臨み、遊具作りやわらべうた、遊びの援助のためのロールプレイなどでスキルアップを行っている。また保育士が子どものモデルとなるよう意識化し、ことばや振る舞いに気を付けている。
IV 保護者への対応・守秘義務	各子どもの家庭の養育方針は送迎時や保護者懇談会等でのやり取りの中で把握するように努めている。保護者からの意見や質問には丁寧に答え、皆が把握できるように記録し、内容によっては園全体で共有している。連絡ノートは互惠型になるよう努めている。個人の情報は外部に出さないように周知している。
V 地域の自然や社会とのかかわり	地域との関わりでは、地区の夏祭りや児童館の行事に参加し、月1回公園や公民館の清掃活動を行い地域とのつながりを大切にしている。園行事の小学生の参加、中学生の同窓会を毎年慣行している。また地域の中学生の体験学習を受け入れ、本物に触れる環境教育の一環として様々な専門分野の方からの講話や体験学習を実践している。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度	専門性を高めるために外部研修に積極的に参加するとともに、外部講師を招いて同一法人4ヵ園で園内研修を行い観察、評価、考察をし、自主研修と繋げ保育内容を高めている。アレルギー児対応や春日市のくれよんクラブと連携し、発達の遅れなど気になる子どもの対応を行っている。
VII 保育の在り方、3歳未満児への対応	一人一人を大切に育てるために育児の担当制を行い、子どもとの愛着を築くように努めている。子どもが一日を安心して過ごすために育児や遊びの環境づくり、関わりを丁寧に進めている。安全、清潔、感染などへの配慮や保護者との緊密な連携を重んじている。
VIII 地域における子育て支援	地域公開保育を月2回行い、手作り遊具、わらべうた、病気、離乳食の作り方、育児相談などを行う。十分な場所が無く時間の設定が難しい。敬老の日は祖父母参加交流を実施している。

